

岡崎恵視：古谷庫造先生のご逝去を悼む



東京学芸大学名誉教授 古谷庫造（ふるや くらぞう）先生は、2007年12月27日未明、心不全のため東京都小平市のご自宅においてご逝去されました（享年85歳）。特にご病気も無く、本当に突然のご逝去でした。

古谷先生は1922年（大正11）に茨城県筑波郡でお生まれになり、1943年東京第一師範学校をご卒業後、1944年に軍隊に入隊され、終戦を迎えられました。1947年に東京文理科大学生物学科（植物学専攻）に入学され、植物生理・生化学を学ばれ、海藻を材料にして研究されました。1950年に同大学を卒業、翌年東京学芸大学助手となられ、1986年（昭和61）のご定年まで、36年間の永きに亘り、東京学芸大学に在職され、教育と研究に取り組みられました。その間、1962年には東京文理科大学から理学博士の称号を取得されました。1964年に助教授、1973年（昭和48）に教授に昇進され、その後、附属世田谷中学校校長、東京学芸大学学部主事（第3部部長）を務められました。また学外では、全国国立大学附属学校園長会会長、日本理科教育学会副会長、日本生物教育学会副会長、文部省の大学設置審議会専門委員等の要職を歴任されました。1986年に東京学芸大学を定年で退職された後、同年創価大学教授に就任され、1993年（平成5）まで在職されました。そして、1998年（平成10）には勲三等瑞宝章を叙勲されました。

古谷先生のご研究は生物学（植物生理・生化学領域）と理科教育学の2分野に亘ります。生物学分野では、三輪知雄先生（後の筑波大学初代学長）のもとで、海藻類の炭酸カルシウム形成（石灰化）機構を研究されました。学位論文は“Biochemical Studies on Calcareous Algae”で、紅藻類サンゴモ科石灰藻を材料にして、その成分分析、有機酸代謝を研

究されました。現在注目されている「バイオミネラリゼーション（生体鉱物形成）」の研究の藻類における草分けでありました。その後も藻の石灰化機構に関して、多くの弟子と共同研究されました。主なものとして、石灰藻の炭酸脱水酵素（カーボニックアンヒドラーゼ）の研究（1971）、石灰化開始部位の微細構造の研究（1980）、紅藻サンゴモ類におけるアルギン酸の発見（1982）、カルシウムイオン輸送に関するカルシウム依存性ATPアーゼ（1984）の研究などが挙げられます。これらは世界で注目されるものでした。1985年には、総説「藻類の石灰化機構」（共同研究）を著されました。先生は永年に亘り日本藻類学会の会員（1953～1998年）で、会計監事（1975～1976年度）、庶務幹事（1977～1978年度）及び第1回日本藻類学会大会（1977）（東京学芸大学）大会長を務められました。

理科教育学分野でのご研究は、1969年（昭和44）に生物学科から理科教育学科へ移籍された後に精力的に行われました。大学及び附属学校を結集した理科教育プロジェクトを企画・推進され、「物質及びエネルギー交換を中心にした中学校生物領域の系統指導について」（1972）などの研究を行われました。また、“プロダクトメータ”を使った中・高等学校の実験教材開発を多くの共同研究者と共に行われました。1978年には「理科における環境教育」（著・編）（明治図書）を出版されました。学校教育における環境教育の必要性をいち早く示された草分け的な著書といえます。

このように、生物学、理科教育学に大きな業績を残された先生のあまりにも早いご逝去が惜しまれてなりません。先生のご冥福を心からお祈りいたします。

（東京学芸大学名誉教授）